

様式1 令和7年度 山梨県立ひばりが丘高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	自分に誇りを持ち自己を磨き、毎日を生き生きと学ぶ生徒。自分を見つめ困難に打ち克つ生徒。社会人として自立し役割を担うことのできる生徒の育成。
-----------	---

山梨県立ひばりが丘高等学校校長 小林 久美

本年度の重点目標	1 自主的・自律的な生徒の育成	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 自己肯定感・自己有用感の育成		B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 心身の健康の保持増進及び基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上		C 不十分である。(4割以上)
	4 社会性や公共性・道徳心の習得		D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価						
番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	年度末評価(2月1日現在)		
				自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	自主的・自律的な生徒の育成	個々の生徒に寄り添い理解することで、「創作授業」や「表現の時間」等により、長所を引き出し、育てる指導を実践し、自主的自律的な態度の育成に努める。	学校評価アンケート	・生徒に寄り添い、個々の長所を引き出し育てる指導は全教員が肯定的に回答した。また生徒からの回答も10割弱の生徒が肯定的であった。 ・部活動や委員会活動等の生徒主体の活動を活性化する指導はほぼ9割の教員が肯定的に回答した。	A	・寄り添う指導は多くの教師が達成でき生徒も肯定しているが、部活動や委員会活動等の生徒が主体的に活動できる環境づくりや指導や支援にはまだ改善すべき余地がある。
2	自己肯定感・自己有用感の育成	きめ細やかな少人数制の授業、ICTの活用、AIドリル等による個別最適化した学習支援や授業のユニバーサルデザイン化を図る。また、協働を取り入れた主体的で対話的な深い学びの実践等により、学力の向上に努める。	授業観察・学校評価アンケート・授業アンケート・基礎学力診断テスト	・個に応じた学習支援や授業のUD化についてはほぼ9割の教師が肯定的な回答をしている。 ・体験的な学習や創作授業、表現の授業などの機会を活用し、生徒の自己肯定感・自己有用感を育成する指導に対しては、ほぼ全ての教員が肯定的に回答した。 ・社会に目を向け、自分らしい生き方を追求する態度の育成については、9割強が肯定的に回答した。	B	・AIドリルによる個に応じた学習支援や学習意欲を喚起するような支援について、生徒の否定的な回答が2割程度であることを鑑み、全ての生徒が分かる授業づくりや主体的で対話的な深い学びになるような学習指導を目指す。 ・総合的な探究の時間や特別活動を活用して体験的な学びを充実させることが生徒の自己肯定感や自己有用感、達成感につながるため、継続的に教育活動に取り入れていきたい。さらに地域の力を活用し、社会を生き抜く力や課題を解決する力の育成に向け学びをさらに深化させたい。
		総合的な探究の時間における体験的な学習や集団活動により、社会を生き抜く力や課題を解決する力の育成に努めると共に、「創作授業」や「表現の時間」等により、自己肯定感・自己有用感の醸成や自己実現に努める。	学校評価アンケート	・健康的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努めているという回答は、ほぼ全ての教員が肯定的に回答した。しかし一方で、生徒の若干名が否定的に回答した。 ・健康的な生活習慣の確立と規範意識の向上に対する指導については全教員と生徒も9割強が肯定的に回答した。	B	・健康的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努めていることが分かったが、生徒の1割弱にはまだ十分に反映しておらず、伝わっていない。個別に粘り強く、家庭とも連携した指導を継続していきたい。 ・課題が潜在化している生徒も多いため、教員は多様な背景を持つ生徒の実態を把握する力をさらに高めていきたい。
3	心身の健康の保持増進及び基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	「表現の時間」「読書活動の時間」「校外学習」等により、他者の言葉に耳を傾け、社会に目を向けることで、自分らしい生き方を追求する態度の育成に努める。	学校評価アンケート	・カウンセリング、通級による指導等により、心身の健康保持増進や自己理解、コミュニケーション力の向上に努めているという回答は、ほぼ全ての教員が肯定的に回答した。しかし一方で、生徒の若干名が否定的に回答した。	B	・健康的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努めていることが分かったが、生徒の1割弱にはまだ十分に反映しておらず、伝わっていない。個別に粘り強く、家庭とも連携した指導を継続していきたい。
		日常の健康観察やカウンセリング、「通級による指導」等により生徒の課題解決を支援し、心身の健康の保持増進や自己理解、コミュニケーション力の向上に努める。	学校評価アンケート・自己評価アンケート(通級)	・日常的挨拶・対話等により望ましい人間関係・社会性を育成する指導について、教員はほぼ全てが肯定的に回答した。いじめアンケートも0件であった。しかし、生徒の回答の中には、1割弱ではあるが、否定的なものがあった。 ・日常の清掃やボランティア活動等により、協力と奉仕のできる公共心・責任感・協調性・豊かな心の育成に努める。	B	・日常的挨拶や対話により、教師と生徒の関係づくりはできているが、社会性を身につけさせるためには、場に応じた言葉遣いやソーシャルスキルの育成などの指導が特に必要である。 ・清掃活動やボランティア活動など、奉仕の心や公共心を養うような教育機会を設けたり、道徳心を養うような授業等学校教育活動全体を通して取り組んでいきたい。
4	社会性や公共性・道徳心の習得	日常の挨拶の励行・対話やインターンシップを通して、いじめを生み出さない望ましい人間関係・社会性・道徳心の育成に努める。	学校評価アンケート・いじめアンケート	・日常的挨拶や対話により、教師と生徒の関係づくりはできているが、社会性を身につけさせるためには、場に応じた言葉遣いやソーシャルスキルの育成などの指導が特に必要である。	B	・日常的挨拶や対話により、教師と生徒の関係づくりはできているが、社会性を身につけさせるためには、場に応じた言葉遣いやソーシャルスキルの育成などの指導が特に必要である。 ・清掃活動やボランティア活動など、奉仕の心や公共心を養うような教育機会を設けたり、道徳心を養うような授業等学校教育活動全体を通して取り組んでいきたい。
		日常の清掃、ボランティア活動、愛校作業、部活動等により、他人を思いやり、協力と奉仕のできる公共心・責任感・協調性・豊かな心の育成に努める。	学校評価アンケート	・日常的挨拶や対話により、教師と生徒の関係づくりはできているが、社会性を身につけさせるためには、場に応じた言葉遣いやソーシャルスキルの育成などの指導が特に必要である。	B	・清掃活動やボランティア活動など、奉仕の心や公共心を養うような教育機会を設けたり、道徳心を養うような授業等学校教育活動全体を通して取り組んでいきたい。

学校関係者評価	
実施日(令和8年2月28日)	
評価	意見・要望等
4	生徒の95%以上が「先生方は、自分には無理かもしれないと思うことにも挑戦できるよう指導してくれている」と肯定的な回答で、大変心強い結果である。様々な背景や思いを抱えて入学してくる生徒達が、「支えてもらっている」「大切にされている」と実感しながら学校生活を送れていることがうかがえる。これは、「学び直し・育ち直し」を大切にしてきた本校の丁寧な教育実践の成果であると思う。また「生徒に寄り添い、長所を引き出す指導」について、生徒の96%、保護者の89%が肯定的に回答しており、教員の自己評価も100%と極めて高く、本校の生徒への丁寧な関わりが確かに届いていることがうかがえる。一方で、ごく少数ながら否定的な回答も見られた。この声にも目を向けつつ、支えられている実感が生徒自身の成長実感へより確かなものとなるよう、今後も学校・家庭・地域が連携して歩みを進めることを期待している。特に、授業参観時にも強く感じたが、「創作授業」や「探究の時間」での学校独自の取り組みは、各自が課題を把握し、自分のペースで自主的に取り組み自主性を育むことにつながっていると思う。また、防災訓練での生徒の行動の素早さ真面目な取り組み姿勢が生徒達の自立的な行動を顕著に表していた。部活動や委員会活動の活性化についても、生徒の95%が満足している。今後さらに、生徒が自ら考え行動する機会が充実していくことを願う。アンケート調査結果から生徒、保護者、教職員の高い評価を得ており、学校の取り組みは様々な教育活動を通して、育まれていくと感じることができた。自分で課題を見つける力が育っており、次は、その課題に向けて計画的に取り組む姿勢を伸ばしていきたいところだ。自らの考えを表現する能力とその能力を発揮できる能力を備えるには、人生経験や生活環境等を踏まえ培うことだと考える。複雑で様々な事情が取り巻く生徒の登校意欲を芽生えさせ、成長させる環境づくりを継続していただきたい。生徒の特性上、全員が自主的に特別教育活動に積極的に取り組むことは困難な場面があるかもしれないが、一部の活動については教職員の後押しで成果が上がっている。自己肯定感の醸成は自主性・自律を醸成するために、最も大切な要素である。こうした地道な活動の効果が、学校教育活動全体に波及することを望む。
3	アンケート調査結果から生徒、保護者、教職員の高い評価を得ており、学校の取組は成功していることがうかがえる。また、各教員が達成感を感じている様子も分かったり成果が上がっていると感じる。総合的な探究の時間などにおいて、地域課題とキャリア教育の2本立ての位置づけがあり、特に、創作授業では地域人材を活用し、地域課題への取り組みから特色ある教育を進められていると感じることができた。横の連携、生徒会活動の充実から、発信することを含めて、さらにその活動を保障することで、本校の特色ある教育がなお一層充実するものになり、ひいては生徒のキャリア形成、自己肯定感・自己有用感を育むことにつながると思う。自分の良さや得意なことに基づき、自信をもって学習や活動に取り組む姿勢が育っている。「自己肯定感」と「自己有用感」を意識的に区別しながら生徒に関わっている点は、大変素晴らしいと感じた。無条件に自分を良くと思える自己肯定感を土台に、他者との関わりの中で「役立つ自分」「価値ある自分」を実感する自己有用感を育てていく実践は、生徒が自分らしく生きる力の育成につながるものと思う。「吉田のうどんづくり」や「花・野菜づくり」といった体験的な学習を通じて自己肯定感・自己有用感の醸成は、生徒・保護者・教員のいずれも90%を超える高い評価であり、学校の大きな特色になっている。人は褒められて(頼られて)育つ。と言われ、肯定感・有用感も根底にあるのはこのことであると思う。会話の多い学校づくりの継続を希望する。一方で、ICTやAIドリルを活用した個別学習支援については、生徒の肯定的回答が81%に留まっており、他の項目と比較すると「あまりそう思わない・全くそう思わない」とする回答が20%と、目立った。ICT活用は「個別最適な学び」において欠かせないものだと考える。生徒一人ひとりの習熟度やニーズにさらに合致できると、より学習効果も高まっていくと考える。AIドリルをあくまで一つのツールとして位置付け、その活用の在り方を検証するとともに、対面や集団で学ぶことの意義や学習意欲との関連について、引き続き丁寧な検討をお願いしたい。授業見学を通して、ICT活用や、きめ細やかな少人数制の授業により、学び直しの学習が確実に進んでいる。『できないこと』が『できた』に進化したときに、より確かな動機付けに繋がると考える。教員定数を確保し、本校の特色ある授業の継続を願う。
3	アンケート調査結果から生徒、保護者、教職員の高い評価を得ており、学校の取組は成功していることがうかがえる。保護者の意見からも、教職員一丸となって生徒にきめ細かな寄り添う指導をしていることが感じられた。会話の多い学校づくりの継続を希望する。カウンセリング等を通じた生徒への支援について、教員100%、生徒98%が肯定的に評価しており、きめ細やかな支援体制が確立していることを感じる。生活習慣の確立やルール遵守の指導についても、生徒の93%が肯定的に捉えており、学校全体で落ち着いた教育環境が維持されていると思う。一方で、保護者の満足度は「あまりそう思わない」が15%と、他の項目と比べると高い状況にあり、今後、さらに家庭と連携し、学校と家庭が一体となって生徒の規則正しい生活習慣を支えていく必要性を感じる。保護者から見ると子供は適度な運動や休養を心がけ、学習に集中できる良好なコンディションを保とうとする姿勢が見られる。授業以外の登校時や休み時間においても、カウンセリングマインドをもって声かけや関わりを行うことを全教員が共通理解のもと実践されている点は大変素晴らしいと感じた。生徒にとって学校が安心できる居場所となっていることが、問題行動ゼロという成果にも結び付いている。また、特色である「通級による指導」は、単にソーシャルスキルを教え込むのではなく、生徒自身が自分を見つめ、考え、解決する力を育む貴重な取り組みである。単位履修と結び付ける工夫も含め、生徒の心に配慮した実践は高く評価できる。今後、学習会や研修会等を通して広く発信されることを期待する。生徒を取り巻く環境は、現実の世界と仮想空間が混在する時代になっている。本校の生徒に限らず、生徒が抱える課題や悩みが、教職員や保護者から見えづらくなっている。限界はあると思うが、カウンセリングや通級など限られた機会を活用して、それぞれの課題を掘り起こすことを望む。
3	アンケート調査結果から生徒、保護者、教職員の高い評価を得ており、学校の取組は成功していることがうかがえる。一方で、各カテゴリーにおいて「全くそう思わない」の回答があるが、何がその原因となっているか。改善方法はあるのか、よく検証され、少しでもその現状の緩和を図ることを希望する。学校内の人間関係やコミュニケーションの範囲を超えて、実践的な体験を積むことは非常に良い機会である。校内指導だけでは実体験として不十分なので、地域社会での体験活動ができる機会を積極的に作っていただきたい。校内とは違う場面で生徒の気づきがあると思慮する。望ましい人間関係の構築や、いじめを生み出さない雰囲気づくりについて、生徒の94%、教員の96%が肯定的な回答しており、生徒たちが安心できる学校づくりが進んでいるように思う。清掃やボランティア活動等の公共心を養う取り組みも、生徒の95%が肯定的に捉えており、生徒達の公共心を育んでいることが分かる。反面、教員の自己評価で「あまりそう思わない」という回答が12%と他の項目に比べ高い傾向にあるのが目につく。どういった部分が必要なのか、学校としての課題として捉えることが、さらに豊かな心の育成につながるのではないかと考える。保護者から見ると、友達と協力しながら活動に取り組む姿勢が育ち、円滑な人間関係を築く力が高まっている。アンケートの自由記述には、「先生方が寄り添ってくださることへの感謝の言葉が多く見られた。一方で、「授業中に必要用途以外でスマートフォンを使用している生徒への対応」や「遅刻に対する評価の在り方」について疑問を呈する意見もあった。これらは、まさに社会性や公共性、道徳性に関わる問いであると感じる。生徒が安心して過ごせる環境づくりと同時に、集団の一員としての責任や規範をどのように育んでいくか、許容と受容の違いを意識しながら丁寧に検討を重ねていくことが、今後一層重要になると考える。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。